

講義名	経営情報分析		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	木村 敏夫		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

\*経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す、ことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数【関数組合】、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法【事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）】を学ぶ。

**到達目標**

\*経営情報分析は、学科目として「既存の枠組」みは存在しない。講義の目的は、「企業」（会社）の経済的意思決定（経済的資源配分）に求められる経営事象に対して合理的な判断を行う方法を学ぶ。受講生は、「課題」として配布される所与の経営事象に体现したデータから、各自が経営事象を判断する資料を作成し、結論を下す、ことを講義目標とする。

経営情報分析の講義は、企業の事業活動に関するデータ、数値資料（財務・事業指標、例えば、販売量・生産量、売上高、固定費・変動費、店舗数、営業利益・経常利益・総資本・株主資本、有利子負債等）に対して、「表計算」（MS-EXCEL）を利用し、論理・財務・統計等の関数【関数組合】、線形計画、What-if分析、分析ツール、ソルバー等を使用して数理的な処理を行い、データを分析し、予想される数値の資料を作成し、「経済的」結論を下す方法【事業（事業の集合体が会社）成果の計画（予測）・測定：分析、評価（検証）】を学ぶ。

**提出課題**

講義時間内で毎回の課題（13から14回）を予定している。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

講義中に行う。

**評価の基準**

出席（50％）と課題提出（50％）で評価する。但し、1）出席と2）提出回数双方を2/3を越えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、講義中以外は認めない。

**履修にあたっての注意・助言他**

\*学修には経営、財務、会計、統計、表計算（MS-EXCEL）の知識が前提となっている。単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自ら、作業などをやらなければ結果はでないと考えてもらいたい。

**備考**

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。

教科書

**プリント資料及び参考文献**

課題はポータルに開示する。処理方法の考え方はプリントを配布する。

**授業計画**

第1講 データ蒐集と分類  
第2講 資本調達、返済計画と利子率計算Ⅰ  
第3講 資本調達、返済計画と利子率計算Ⅱ  
第4講 相関・回帰分析と予測Ⅰ  
第5講 相関・回帰分析と予測Ⅱ  
第6講 相関・回帰分析と予測Ⅲ  
第7講 最適資源配分Ⅰ  
第8講 最適資源配分Ⅱ  
第9講 最適資源配分Ⅲ  
第10講 財務情報と損益分岐点  
第11講 販売価格、費用分岐と費用削減  
第12講 シナリオ登録と損益分岐情報  
第13講 時系列、トレンド予測  
第14講 ポートフォリオ：確率、分散不確実性下の投資決定計算  
第15講 情報の検定

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）  
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）  
ウ：ディスカッション、ディベート  
エ：グループワーク  
オ：プレゼンテーション  
カ：実習、フィールドワーク

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

当然のことです。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

大学の講義は、学問・学科目を「理解する」のが目的・目標する。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。